

開幕まで1年に迫った北京冬季五輪の出場が期待されるスキー・アルペンシヨナルチームの小山陽平選手(22)＝金沢市内川中OB、日本大4年＝が3日までに、環境開発(本社・同市大桑町)とスポンサー契約を結んだ。石川県内企業との契約は初めてで、同社は金銭面で活動を支援する。金沢の山間地から世界に羽ばたいた「内川の星」は、故郷の応援を励みに高みを目指している。

【16面に関連記事】

開幕まで1年

環境開発は一般・産業廃棄物処理を事業主体とし、高山盛司社長のもとで社員約130人が働く。小山選手が内川小1年で初めて在籍したスキークラブ・内川サンライズで監督を務める前波豊さんが勤務している縁で、スポンサー契約の話が持ち上がった。

小山選手は内川中時代に全国中学校大会で2度優勝。北海道の双葉高ではユース五輪に日本代表で出場し大回転で銀メダル獲得、インターハイ2連覇などの実績を残した。

トップスキヤーの多くは、環境に恵まれている北海道や東北、長野などから育っている。アルペンで五輪に出場した石川県勢は、前回平昌五輪の石川晴菜さん(金沢市紫錦台中OG)のみで、前波さんは「後進地」といえる石川から、五輪を狙える選手

環境開発(金沢)スポンサーに

県内企業初の契約

スキー小山を故郷から支援

北京五輪 一番近い「内川の星」



冒頭に「環境開発」の社名ロゴが入ったシャツを着る小山選手



W杯第4戦の回転1本目で果敢に攻める小山選手
＝1月10日、スイス・アデルボーデン(Getty=共同)

小山選手は1月上旬、自身のユーチューブチャンネルで「昨年はコロナで活動が制限され、大変な一年でした。今年はW杯でコンスタントに30番に入れるよう結果を残していきたい。応援よろしくお願いします」と決意表明した。今後は欧州でW杯などを転戦し、初の五輪切符を目指す。

小山選手の今季W杯回転成績

第3戦	(1月6日)	43位(クロアチア)
第4戦	(1月10日)	途中棄権(スイス)
第5戦	(1月16日)	45位(オーストリア)
第6戦	(1月17日)	32位(同)
第7戦	(1月26日)	31位(同)
第8戦	(1月30日)	48位(フランス)
第9戦	(1月31日)	46位(同)

が出てきたことは地元関係者の誇り」と喜ぶ。

海外のトップ選手が身長180～190センチ台の中、小山選手は170センチ。トップ選手となれば、欧州を軸に海外遠征が多く、その分経費も膨らむ。「小さい体で世界を闘う教え子の助けになれないか」。そんな前波さんの「親心」に会社側が立ち上がった。同社のスポーツ選手支援は初めてで、小山選手は「環境開発」の社名ロゴ入りシャツでレースに臨んでいる。府中屋智博総務部長は「小山選手の活躍で社員が活気をもらっている。五輪開催の来年は創業50年。精いっぱい応援したい」と話す。

ワールドカップ(W杯)本格参戦2シーズン目を迎えた小山選手は、新型コロナウイルス検査で陽性判定が出たため昨年12月下旬の第1、2戦を欠場した。回転の第7戦(1月26日、オーストリア)で今季最高の31位に入った。

前回の五輪は全日本選手権優勝者に内定を与える「一発勝負」だったが、北京五輪は出場枠を含め選考基準は未発表。日本大の竹腰誠スキー部監督(旧白峰村出身)は「回転の実力は小山が間違いなく国内1番で、五輪代表に最も近い。24時間スキーのことを考えており、持久力もついてきた。またまた上を目指せる」と評する。